

外国人 安心院いいね!



農村体験ツアー急増2000人 15年度

グリーンツーリズム(農村民泊)発祥の地として知られる宇佐市安心院町の田舎生活体験ツアーが外国人観光客の人気を集めている。2015年度には約2000人の外国人が訪れ、農家にとって貴重な副収入につながっている。主宰するNPO法人はインバウンド(訪日外国人客)を増やし、農家の所得向上や後継者不足の解消につなげたいと期待している。

(河村輝樹)

「これはさつき採ったナスだよ」
安心院町の農家、久々宮正晴さん(66)、和子さん(71)夫婦宅。台湾・台北市の会社に勤める陳憶芬さん(47)ら親子3人は、野菜の天ぷらや煮物、地元の食材を使った料理を出され、笑顔を見せた。

陳さんらは社員旅行で8月下旬、同僚とその家族計約60人で安心院町を訪れた。久々宮さん方の畑で野菜を収穫したり、温泉に入ったりした後、一緒に食卓

▲テフルいっぱいの料理を囲む久々宮さん夫婦(右)と陳さん家族―大原一郎撮影

を囲んだ。陳さんは「野菜本来の味を生かした料理で、とてもおいしい。日本の食文化を感じることができて楽しい」と気に入った様子。久々宮さんは「子どもたちが帰省してきたような雰囲気になる。漢字で筆談ができるので言葉の壁は感じない」とほほ笑んだ。

60戸が受け入れ

NPO法人・安心院町グリーンツーリズム研究会は1996年、都市と農村の交流を通じ、後継世代が古里の農業に魅力を感じ、農家の副収入を創出する目的で発足。当初は農家8戸が試験的に有料で観光客を泊

めていたが、県が2002年、体験型の宿泊の場合は飲食店営業の許可を不要とするなど、全国に先駆けて規制を緩和して活動が本格化した。現在は約60戸が参加し、修学旅行などの団体客も受け入れている。

外国人の人口が高まったのは、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)が一因とみられる。

豊かな自然や食卓に並んだ田舎料理の写真などが拡散し、研究会に外国からの問い合わせが来るようになったという。15年12月には、台湾の保険会社の社員旅行として、約700人を分散

農家の貴重な収入に

農村民泊の料金は1泊2食付きで1人6800円(税込み)、これに農業体験や観光案内などを加えると8950円(同)。民泊に伴う農家1戸当たりの年間収入額は平均120万円、最高で350万円に上る農家もある。

昨年9月に台中市と大分空港を結ぶ定期チャーター

して受け入れた。

研究会によると、15年度に安心院町で農村民泊したのは延べ1万1287人。このうち外国人客は約2割の2044人で前年度の968人から倍増した。16年度は熊本地震の影響で外国人は854人に減少したが、今年度は復調の兆しをみせているという。

安部翼事務局長(28)は「旅行慣れした外国人の間では、観光地よりも日本の原風景に触れたいというニーズがあるようだ」と語る。農村民泊の成功例として韓国から自治体関係者らの視察も相次いでいるという。

便が就航したことで、夫婦や家族旅行といった個人客も増え始めている。安部事務局長は「海外の方から評価され、住民が自分の古里に愛着、誇りをもつことにもつながっている。魅力が高め、若い世代の定着につながってほしい」と話している。